

2022年度NHKグループ合同入局・入社式 会長講話

会長の前田晃伸です。

皆さん、本日はNHKへの入局、そして各団体への入社、おめでとうございます。今年度は、NHKグループとして、291人の新しい仲間を迎えることができました。NHKグループの代表として、皆さんを心から歓迎します。皆さんの入局・入社にあたり、私から一言、お話をしたいと思います。

私は、大分県中津市で育ちました。その中津市にゆかりがある明治時代の思想家・福沢諭吉をととても尊敬しています。彼のことは「独立自尊」を、子どもの頃から大切にしてきました。一人ひとりがしっかりと自立し、何事も自分の判断と責任のもとに行うという意味のことばだと理解しています。

また、福沢の著書「学問のすゝめ」にはこんなことばもあります。「独立の気力なき者は必ず人に依頼す、人に依頼する者は必ず人を恐る、人を恐るる者は必ず人に諛(へつら)うものなり。」

自分でやる気概がない人はいちいち他人を頼ることになり、結局は1人では生きていけなくなってしまうという趣旨だと受け止めています。福沢は、近代国家成立のためには、まず個々人がしっかりと実学を身につけることが第一で、それによって初めて日本が立派な独立国家となることができると説いたわけですが、この指摘には普遍的な意味があると思っています。

皆さんも、これから仕事で何か問題が起きた時に、上司や同僚が考えてくれるなどと思わずに、どう対処すべきか自分の頭でしっかり考え、判断するよう心がけてください。最近こそかなり減りましたが、NHK職員の常套句に「今までそうだったから」というセリフがあります。そんな前例第一主義にならないよう注意してください。自分の軸をしっかりと持ち、自分の頭で考えて行動してください。経験が少ない間は判断を間違ってしまうことがあるかもしれませんが、みずから主体的に考え、行動する姿勢、「独立自尊」の精神が何より大切だと思っています。

NHKはいま、「新しいNHKらしさの追求」と「スリムで強靱なNHK」をキーコンセプトにした改革の真っ最中です。ありとあらゆる分野の改革を進めています。どうして今、抜本的な改革に取り組む必要があるのか、この機会にご説明したいと思います。

皆さんは1週間で何日くらいテレビを見ていますか。毎日欠かさず見ている人はいるでしょうか。スマホは毎日必ず触るけれども、テレビや新聞は1週間に一度も見ないという人がほとんどかもしれません。中には、そもそもテレビを持っていない、NHKに入ることになったので慌てて買ったという人もいるのではないのでしょうか。

そうした若い人たちを中心としたテレビ離れや、ユーチューブやネットフリックスとい

ったインターネットでの動画視聴の急速な普及など、メディア環境や視聴者行動はさまざまの勢いで変化しています。そうした状況の中で、我が国でただ一つの公共放送であるNHKはどうあるべきでしょうか。

NHKの大きな役割は、健全な民主主義の発展に寄与することだと考えています。NHKが、今後もその要請にきちんと応えていくためには、これからの時代に対応した「スリムで強靱な新しいNHK」へと生まれ変わることが欠かせないと思っています。「国民の財産」とも言えるNHKが、将来にわたって持続可能な形で社会に貢献し続けていくためにどうあるべきか。また、皆さんのような若い、前途のある人たちが誇りを持ち、安心して働き続けることができる組織となるためにどうするべきか。それに対する答えが一連の改革です。詳しい改革の中身はこのあとの研修で学んでほしいと思いますが、すべての改革は、NHKの未来を確かなものとするためだと理解してください。

私が会長に就任したこの2年間で、改革はかなり進んだと思います。改革が成し遂げられ、本当の意味で「スリムで強靱な新しいNHK」へと生まれ変わることができれば、私は、NHKの存在価値は今まで以上に高まると確信しています。とはいえ、改革はまだ道半ばです。NHKの理屈に染まっていない皆さんから見れば、「ここは変だな」と感じるところがまだきつと残っているはず。その時は、遠慮なく指摘してください。私に直接連絡をしてくれても構いません。そうした皆さんの意見や行動が、NHKグループの未来をあるべき姿に変える、視聴者の皆さんに「NHKがあって良かった」と心から感じてもらえるようにするための原動力になると思います。

しかしそうは言っても、自分がどの方向に向かって進んでいけばいいのか、会社に入ったばかりの皆さんにはまだピンとこないと思います。昨年、NHKとしてどのような人を高く評価するのか、「NHK人財評価基本方針」として基本的な考え方を示しました。

具体的には、▼NHKの価値を視聴者の皆さんに理解してもらえる新しいコンテンツやサービスを生み出す人、▼地域の課題解決や発展に貢献する人、▼失敗を恐れず、新たな業務に自ら手を挙げて積極的にチャレンジする人、▼専門性を常に磨き、スキルやノウハウを惜しみなく後輩にも継承する人、などです。さらに▼こうした部下の飛躍を後押しする管理職も評価すると、はっきり宣言しています。この他にも、「人財育成」や「人事異動」などの基本方針も明文化しました。NHKグループの将来を担う皆さんが確かな目標を持ち、成長を実感できるようにするためのものですので、指針として参考にしてください。

実は、今年入局した職員の皆さんは、「公共メディア プロ人財」、つまり公共メディアであるNHKを引っ張っていくプロフェッショナルとして採用した初めての職員になります。これまでのNHKは、職種ごとのタテ割りが強く効きすぎて弊害が目立つようになっていたため、思い切って職種別の採用を取りやめ、研修内容も抜本的に変えました。

職員の皆さんには今後、軸足を置く職種だけでなく、さまざまな業務を経験してもらいます。NHKの幅広い業務内容を実感してもらおうと同時に、これまで自分では気づかなかった新たな適性や能力を発見する貴重な機会にもなると思います。専門性をとことん追求することも支援しますし、多彩なキャリアパスを歩みたいという希望にも応えていけるような人事制度と運用に改めましたので、存分に力を発揮して下さい。

また、きょう入局した皆さんの中には、自分のふるさとなど、特定の地域に密着して活躍する「地域職員」の方々があります。NHKは全国組織ですから、これまでは数年ほどで異動してしまう人が多く、各地域の人たちからは「NHKの職員はいずれいなくなってしまう人」と見られていた面があったと思います。地域職員の皆さんには、それぞれの地域にどっしり根を下ろし、そこに住んでいる人たちと同じ目線に立ったサービスを展開して欲しいと思っています。それぞれの地域に正面から向き合う活動は、全国にネットワークのあるNHKが果たすべき大切な役割の一つです。今後、地域放送局の要員の1割が地域職員となるよう、さらに拡充していく方針ですので、地域職員の皆さんが地域の顔となって活躍することを大いに期待しています。

NHKグループ各団体の新入社員の皆さん。関連団体は、私が会長に就任して以降、NHK本体との連携を強化するとともに、各団体どうしのヨコの連携も意識して強化してきました。その結果、グループ全体の総合力をこれまで以上に発揮しようという機運が高まり、数多くの成果も出始めています。各団体の皆さんには、「NHKグループは一体」という心構えを持ち、広い視野で活躍して欲しいと思っています。

最後に私からのアドバイスです。

皆さんは、これからの協会人生で、壁にぶつかることが何度かあるかもしれません。そんなときに本当に頼りになるのは、同期どうしのヨコのつながりです。この研修の機会に、同期のヨコのつながりを意識して築くよう心がけてください。職種や団体を越えた同期どうしのつながりは、自分の視野や仕事の幅を広げることにきつと役立つはずです。私も、銀行に入った同期とは50年以上たった今でも親しくしています。オンラインの研修が多く難しい面があるとは思いますが、なんとか工夫をして、少しでも人脈を広げる努力をしてください。

NHKグループの未来は、きょうここにいる皆さんが中心となって築き上げていくものです。そのための土台づくりは、私が責任を持ってやります。皆さんの活躍を心から期待し応援しますので、前向きに楽しく仕事に打ち込んでください。

(以上)